

下奥議員

振興環境委員会

議案質疑

振興部



下奥議員は、本会議の一般質問に続き、アジア競技大会について、委員会では、議案に出された推進経費の補正予算に対して質問をしました。

開催都市は決定したが、開催に向け、関係者と調整をする、と言うが、誰とどのような内容について調整されるのか。「コンパクトに」と知事がいう中身を具体的に。また、札幌への視察の意義、費用について。など質問し、より詳細に具体的に県民に情報を明らかにするべき、と訴えました。

それに対し県は、札幌への視察は、「競技は

(冬季とは)違うが、本部運営やメディア対応、セキュリティについて」の調査であるとなりました。情報はHPに掲載をし、さらに詳しい情報は求められれば、セキュリティなど公開できないこと以外は示す、と回答しました。

最後に、大会の取り組みが県民生活や環境と調和のとれた規模や内容も無理のないものにする。スポーツ交流が最大の目的であり、国際競争力強化のために利用されるのではなく、国際平和と友好を促進する大会になることを求めました。



一般質問でも アジア競技大会について詳細を求める

一般質問では予算以外の内容で、よりよい大会にするためさらに詳しく質問をしました。

まず、これまでの経緯は不透明であり、十分な議論もされていないことを指摘しました。

アジア競技大会構想のバージョン 1 が出て以降、資料を求めても資料提供がされなかったのはなぜか。大会経費が850億円と出された積算根拠について、どのような話し合いがされてこの金額になったのか。また、この経費が膨れ上がる可能性はない、と言えるか。などを質問しました。

県は、資料提出が遅れたことについて「会場については8月上旬に出した。財政計画は、名古屋市は、粗々のものでも出すべき、としたのに対し、県はより精査してから出した方がよいとの考えから出さなかった」とした。また、850億円という金額についても「主にインチョン大会を

参考にいろんなパターンを客観的に見て出したもの」と、具体的な積算はしていないことが明らかになりました。そのうえで、「今後積み上げ作業をしていく。不確定なことが多いため、(850億を上回らないかは)わからない」と答えました。「無駄を極力省く」と繰り返しましたが、大会経費が膨れ上がる恐れは大いに残る答弁となりました。

最後に、前回大会が行われた韓国のインチョンでは、市の負債が国内最悪のレベルになったことや、1994年大会を行った広島では、競技場の建設と維持費がかさみ、財政非常事態宣言を出すに至ったことを示し、県民に負担を押し付け、大会が負の遺産にならないこと。そして、あくまでも「平和及び環境の促進」に寄与できる県政・市政になるように、県民・市民と力を合わせていくことを求めました。